

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和2年度 兵庫県農業気象技術情報第4号（8月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」「どんとこい」では、草丈が平年並～やや短く、茎数はかなり多い。一方、普通期の「ヒノヒカリ」「日本晴」「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べてやや短い～平年並み、茎数は「ヒノヒカリ」「日本晴」でかなり少なく、「きぬむすめ」でかなり多い。</p> <p>県北部では、草丈は平年並で、茎数が非常に少ない。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。</p> <p>2 栽培管理</p> <p>早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。出穂後、高温が予想されるので、可能なほ場では夜間の掛け流しかん水に努める。</p> <p>特に乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、登熟期の水管理は、湿潤（飽水）状態で行い、根の活力の維持に努める。</p>	<p>3 病虫害</p> <p>(1) ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所など水田内に入ってよく観察し、いもち病が発生していないかを確認する。進行型病斑が多い場合は、治療効果の高い薬剤で防除する。</p> <p>(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前に薬剤防除を行う。</p> <p>(3) ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用している場合でも、処理後日数の経過に伴って効果が低下するので、発生に注意する。</p> <p>(4) 8月上旬の時点でツト(加害葉)が散見される場合は薬剤防除を実施する。</p> <p>(5) カメムシ類の発生状況を確認した上、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに実施する。出穂間近の畦畔除草は、ほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。</p>
		<p>3 病虫害</p> <p>(1) 7月中旬におけるいもち病の発生は、県全体では平年並みであり、今後とも平年並みの発生が予想される。</p> <p>(2) 紋枯病の発生は、県全体では平年並みの発生である。今後の発生も平年並と予想される。</p> <p>(3) ヒメトビウンカ、セジロウンカはやや多く、トビイロウンカは平年並みと予想される。今後、気温は上昇してこれらの害虫の増殖には好適となるため、発生の推移に留意する。</p> <p>(4) コブノメイガ、イネツトムシについては、やや多い発生と予想される。</p> <p>(5) カメムシ類は、本田周辺で例年より早い時期から発生が確認されている。今後はやや多い発生と予想される。</p>	

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育 出芽は概ね順調であるが、排水不良田では7月の長雨の影響で湿害や立枯症状が認められる。</p> <p>2 栽培管理 降雨後は、ほ場内に雨水が滞水しないように、排水対策に努める。 土壌が乾燥する場合には走り水を行う。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意する。</p>	
		<p>3 病害虫 (1) 茎疫病及び紫斑病の発生に注意する。</p> <p>(2) フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの成虫誘殺数が多いことから、今後の発生に注意する。 カメムシ類については周辺雑草が好適な繁殖場所となるため、発生に注意する。</p>	<p>3 病害虫 (1) 茎疫病では排水対策の徹底が重要である。高温乾燥時にはかん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。紫斑病対策としては開花期に防除を行う。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。カメムシ類は着莢初期～子実肥大期に防除する。ハスモンヨトウについては令和2年度発生予察防除情報第1号を参考にすること。（<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02boujyo1.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02boujyo1.pdf</a>）</p>
キャベツ	全 県 共 通	<p>1 栽培管理 (1) 高温期の育苗となるため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(2) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(3) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(4) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>(5) 除草剤（土壌処理タイプ）の散布タイミングを逃さないよう注意する。</p> <p>2 病害虫 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウ成虫誘殺数が6月上旬以降急増し、多い状態が続いている。ほ場で例年より本種の発生が多くなるおそれがある。 ハイマダラノメイガの密度増加が例年より早い時期から見られており、今後、被害に対する注意が必要である。</p>	<p>1 栽培管理 (1) ベンチ等での浮かし育苗とし、かん水の過不足がないよう注意するとともに、苗が徒長しないよう日没前のタイミングでのかん水を控える。</p> <p>(2) 早めに液肥を施用する。</p> <p>(3) 高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(4) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。</p> <p>(5) 散布直後に降雨にあたらぬよう天気予報を確認し、計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの若齢幼虫は、集団で加害するので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。令和2年度発生予察防除情報第1号を参考にすること。（<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02boujyo1.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02boujyo1.pdf</a>） ハイマダラノメイガでは、育苗期や定植直後に加害を受けると被害が大きいので、予防的な防除に努める。「病害虫発生予察情報」「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。</p> <p>(2) 樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。</p> <p>(3) 適期収穫に努める。</p> <p>樹種別の生育状況（7月3半旬時点）</p> <table border="1"> <tr> <td>クリ</td> <td>生育は平年並みで、着果は良好である。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>生育はほぼ平年並み。着色は平年に比べ早い。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>開花期は平年より4日早かったが、果実の生育は平年並み。着果量は「二十世紀」で少なかった。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>着果始めは平年に比べ5日早く、新梢の生育は平年より早い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>園による着果のばらつきは少ない。果実の生育はやや遅れている。生理落果は平年並み。</td> </tr> </table> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>	クリ	生育は平年並みで、着果は良好である。	ブドウ	生育はほぼ平年並み。着色は平年に比べ早い。	ナシ	開花期は平年より4日早かったが、果実の生育は平年並み。着果量は「二十世紀」で少なかった。	イチジク	着果始めは平年に比べ5日早く、新梢の生育は平年より早い。	温州ミカン	園による着果のばらつきは少ない。果実の生育はやや遅れている。生理落果は平年並み。	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 今年は梅雨による根痛みが生じる可能性が高いため、梅雨明けの高温乾燥には特に注意が必要である。急激な土壌水分の変化を避けるため、敷き草等のマルチを行うとともに、晴天が続く場合には適度なかん水を行う。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効である。</p> <p>(2) 樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏期剪定を行う。</p> <p>(3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p>
クリ	生育は平年並みで、着果は良好である。												
ブドウ	生育はほぼ平年並み。着色は平年に比べ早い。												
ナシ	開花期は平年より4日早かったが、果実の生育は平年並み。着果量は「二十世紀」で少なかった。												
イチジク	着果始めは平年に比べ5日早く、新梢の生育は平年より早い。												
温州ミカン	園による着果のばらつきは少ない。果実の生育はやや遅れている。生理落果は平年並み。												
		<p>2 台風対策</p> <p>気象情報に留意し、台風の接近が予想される場合は右記の対策を行う。</p>	<p>2 台風対策</p> <p>枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。</p> <p>台風通過前から、病害対策のため防除を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。</p>										
		<p>3 病害虫</p> <p>7月中旬の、ナシ黒星病の発生は平年よりやや少なく、今後もやや少ない発生が予想される。ハダニ類は今後やや多い発生が予想される。</p> <p>果樹カメムシ類は、やや多い発生が続いており、今後8月以降は次世代成虫の出現期を迎えることから、前述のナシの他、多くの果実への加害が懸念される。</p>	<p>3 病害虫</p> <p>カメムシ類の飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。</p> <p>防除薬剤については「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、農薬使用基準を守るとともに周辺農地への飛散防止に努める。</p>										

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。  
 ※本情報は、7月28日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

### (1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月3日～9月2日）

[令和2年7月23日 大阪管区气象台発表]

#### <特に注意を要する事項>

期間のはじめは降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みです。

#### <予想される向こう1か月の天候>

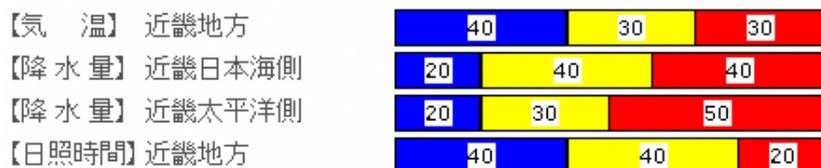
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間のはじめは、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

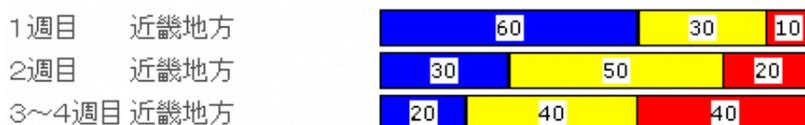
週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（8月～10月）

[令和2年7月22日 大阪管区气象台発表]

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）>

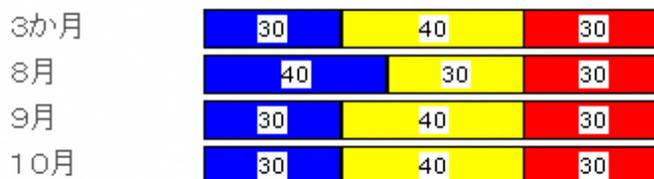
【気温】

[近畿地方]

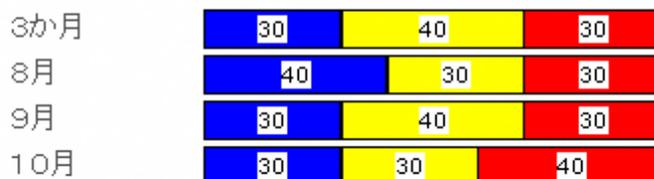


【降水量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

問い合わせ先

**本情報に関すること**

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)  
農産班: 主作・機械担当 内線 4069  
農産班: 野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

**技術内容に関すること**

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)